神奈川県秦野市の新規就農支援の取組み

──市、農業委員会、JAが共同設置した組織が機能発揮──

理事研究員　渡部喜智

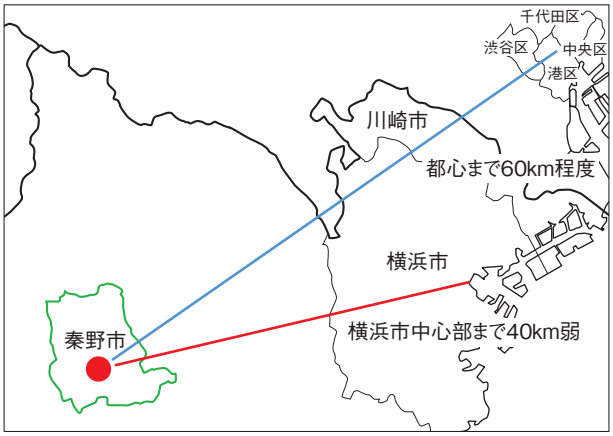
1　多種・多品目の複合農業生産の伝統

神奈川県秦野（はだの）市（以下「市」）は同県中西部に位置し、横浜市中心部までが40km弱、また東京都心までが60km程度の距離にある大都市近郊都市である（第１図）。

市の北側に丹沢山系、南側に渋沢丘陵があり、それらに囲まれた盆地状の地形となっている。このような地形から林野が多く、市面積の過半（53％弱）を占める。一方、耕地は市面積全体に対しては13％の割合だが、林野面積を除いた面積に対しては４分の１近く（24％）に及ぶ。市人口が17万人を数え都市化しているとはいえ、人家の近くの林野と耕地が緑豊かな里山を形成する環境だ。

市内耕地は１割が田、９割が畑地という構成だ。富士山噴火による土壌条件もあり、畑作が農業の中心となってきた。江戸時代中期から葉たばこ栽培が盛んとなり、麦、菜種、ソバ、落花生、茶、野菜など多品目の栽培が行われ、現在につながっている。葉たばこは野菜や花卉、果樹に代わったが、多種・多品目の複合農業生産の伝統が脈々と息づく。

第１図　神奈川県秦野市の位置関係



資料　国土地理院「電子国土基本図」から作成

同市を管内とするJAはだのは、組合員、准組合員との様々な地域の協同組合活動が日常的に盛んに行われていることとともに、全国のJA直売店舗の嚆矢（こうし）である「はだのじばさんず」（以下「じばさんず」）によって有名だ。ただし、農業就業者の高齢化のもと、傾斜地も多いことから農作業が厳しい耕地を中心に、耕作を行わないところが出ている実情もある。新規就農支援は重要な課題となってきた。

2　市、農業委員会、JAが共同設置した「はだの都市農業支援センター」が一貫的支援

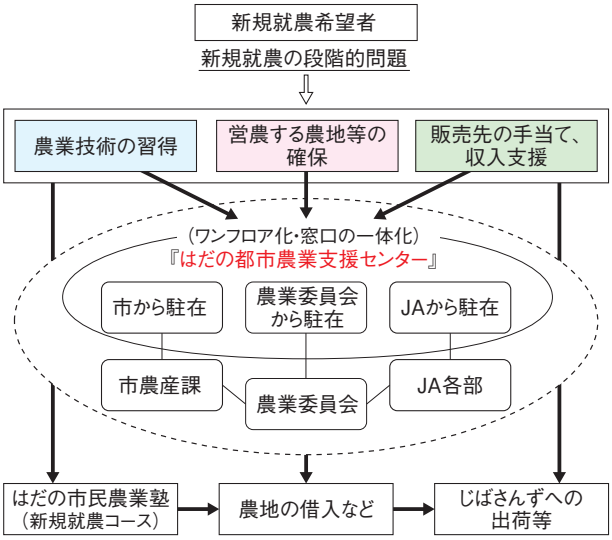
外部からの新規就農希望者は、①農業技術の習得、②営農する農地等の生産手段の確保や必要資金の調達、③販売先の手当てや軌道に乗るまでの収入支援などに関する十分な情報と手段を必ずしも有していない。①、②、③について、どこに相談し、どのようにして解決策を得るのか、一貫したプロセスの支援が必要である。

これに対し、秦野市（行政）、同市農業委員会（農地の権利移転管理等）、JAはだの（営農、農産物販売、資材調達や金融など）が各々人材を出し合い、2006年に「はだの都市農業支援センター」（注）を設置した。同じ事務所で机を並べ情報を共有し、一体的かつ共同して新規営農希望者に対応することを目指した。同センターは、これを「ワンフロア化」と称しており、新規就農希望者が直面する①、②、③の段階的な問題に対し一貫的に支援する仕組みが構築された（第２図）。

同センターでは、新規就農希望者に対しコンサルティングを行った上で、農業技術の習

農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/

第2図　秦野市の新規就農支援システム（簡略イメージ図）



資料　JAはだの、はだの都市農業支援センターなどの資料から作成

得のため「はだの市民農業塾」新規就農コース（期間２年）での研修等を紹介する。１年目は講義と共同実習、２年目になると各自作成した年間営農計画に基づき多品目の野菜などを耕作する実践活動が中心となる。

13年度新規就農コースの講師を務める伊藤隆弘氏も脱サラの新規就農者である。05年から秦野市で農業を始め、市やJAなどの支援を受けながら、ブルーベリーや柿を含め安全・高品質をモットーに年間30品目程度の農産物を生産している。10年には「認定農業者」になるまで規模を拡大した。消費者と直接触れ合う観光農園事業にも着手し、地域の同業農園主との連係をはかり、集客力・知名度を上げる工夫も進めている。

同センターは、研修を終えた就農希望者に、農地の借入れを紹介・斡旋する。県の「農業サポーター制度」のもと、条件等をクリアすれば県農業公社が中間保有した農地を借入れ（利用権設定）し、就農するケースが多い。06年以降これまでに、54人が前述の研修を終え、そのうち42人が市内で新規就農者として農産物の生産に携わっている。

なお、収入支援策として、国の「青年就農給付金」の利用や「農の雇用事業」により被雇用してもらう方法などが用意されているが、新規就農促進に向け改善等課題も残る。

（注）本稿では新規就農支援に絞った説明をしているが、「はだの都市農業支援センター」は地域の農業振興全般を業務としている。

地元産農産物を品揃えする「じばさんず」

3　販売先としての「じばさんず」の存在

02年11月にオープンした「じばさんず」は売り場面積617m^2、加工品等を含め300～400品目を陳列販売し年間10億円を売り上げる。産地間連携JAからの品揃え調達などはあるが、85％程度が地場産である（写真）。

「じばさんず」へは、出荷者組織に加入し決められた品質基準を守れば、少量でも委託販売の出荷を行うことができる。新規就農者にとっては頼りになる販売先だ。「じばさんず」への出荷は確かな現金収入を得る機会となるとともに、出荷農産物への消費者の反応を感得し、そのニーズに沿った営農への反映をはかる機会が得られる。

秦野市における共同で設置した「はだの都市農業支援センター」が新規就農希望者に一体的に対応し、かつ一貫した支援態勢を提供する取組みは、外部からの新規就農者を迎え入れるのに何が大切かを示唆するところが多く、今後の進展が期待される。

（わたなべ　のぶとも）